

Title	イマジナリー・コンパニオンの具現化：エモーショナル・デザインを通して
Sub Title	Make an imaginary companion : through emotional design
Author	林, 雅涵(Lin, Yahan) 稲蔭, 正彦(Inakage, Masahiko)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2011
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、Imaginary companion (以下IC) をエモーショナル・デザインによって具現化することを目的とする。ユーザにとって大切な心の仲間が具現化されることにより、生活が豊かになることに貢献したい。 本論文ではICロボットの先行商品だと思われる商品を分析し、ICロボットの特性を明らかにする。第三章ではICロボットのプロトタイプ、Cheeron++のコンセプトについて述べる。第四章ではCheeron++の実装を、「本能レベル」「行動レベル」「内省レベル」の面からそれぞれ詳述する。そしてユーザに実際にCheeron++を使ってもらい、質的データ分析法によって評価する。
Notes	修士学位論文. 2011年度メディアデザイン学 第126号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002011-0126

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2011年度（平成23年）

イマジナリー・コンパニオンの具現化
～エモーショナル・デザインを通して～

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科
林 雅涵

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に修士
（メディアデザイン学）授与の要件として提出した修士論文
である。

林 雅涵

審査委員：

稲蔭 正彦 教授（主指導員）

中村 伊知哉 教授（副指導員）

杉浦 一徳 教授（副指導員）

イマジナリー・コンパニオンの具現化 ～エモーショナル・デザインを通して～

林 雅涵

論文要旨

本研究は、Imaginary companion（以下IC）をエモーショナル・デザインによって具現化することを目的とする。ユーザにとって大切な心の仲間が具現化されることにより、生活が豊かになることに貢献したい。

本論文ではICロボットの先行商品だと思われる商品を分析し、ICロボットの特性を明らかにする。第三章ではICロボットのプロトタイプ、Cheeron++のコンセプトについて述べる。第四章ではCheeron++の実装を、「本能レベル」「行動レベル」「内省レベル」の面からそれぞれ詳述する。そしてユーザに実際にCheeron++を使ってもらい、質的データ分析法によって評価する。

キーワード

イマジナリー・コンパニオン、エモーショナル・デザイン、インタフェース・デザイン、キャラクター・デザイン、癒し

Make an Imaginary Companion ~Through Emotional Design ~

YA-HAN LIN

Abstract

This study examines the potential values of materialized imaginary companions (“ICs”) using emotional design. By materializing ICs, this study aims to enrich potential users’ daily lives, as the characters are known for providing psychological relief based on the past psychological studies.

This paper first investigates the need of not-yet-existing IC robots by analyzing the functions of existing robotic products. The study then proposes the need of IC robots since the analysis suggests that the potential values of IC robots are different from any existing robotic products. By creating the first IC prototype Cheeron++, the study attempts to demonstrate the intimate bounding between users and the character hence confirm the unique values of IC robots.

Keywords:

Imaginary companion (“IC”), Emotional design, User interface design, Character design, healing